



明化の教育

9月号(第470号)
令和元年9月2日
文京区立明化小学校
校長 溝畑 直樹

役割を見つけだす力

校長 溝畑 直樹

曇天の続く7月から一転、夏休みを待っていたかのように本格的な夏が訪れ、猛暑の中で過ごした令和最初の夏休み。44日間の休みを無事に終え、今日284名の子供たちの顔がそろいました。いよいよ2学期の始まりです。この休み中には個人面談を行いました。保護者の皆さまには暑い中ご来校いただきありがとうございました。また、子供たちが大きな事件・事故などに巻き込まれることもなく、皆が無事に過ごせたことに対し、保護者・地域のみなさまに感謝を申し上げます。

2学期もまた、9月28日の『おめでとう145周年記念集会』をはじめ11月15日(金)・16日(土)の2日間は学芸会も予定しています。今学期も、子供たちのために教育活動の更なる充実を図ってまいります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



6月から始まった校庭の埋蔵文化財調査は順調に進み、9月末には校庭が使えるようになる予定です。7月18日には、「不自由な思いをさせた子供たちのために」との願いを教育委員会、調査担当業者の(株)テイケイトレード様が聞き入れてくださり、異例の子供向け発掘調査現地見学会が実現しました。特に、社会科で歴史を学んでいる6年生には、『明化小の地中に埋もれていた旧校舎と江戸時代の遺跡』というこの日のために準備していただいた資料が配られ、調査担当者の大口さんによる特別授業も行いました。自分たちが生活しているこの地面

の下に何百年、何千年前の人々の暮らしの跡が埋まっているというのは、本当に不思議な気持ちです。子供たちと一緒に目の前の遺跡を眺めていると、旧校舎のプールで泳いでいた子供たちの様子、畑を耕し作物の収穫に汗を流していた人々の姿が浮かんでくるようです。このイベントの実現にご協力いただいた多くのみなさまに改めて感謝申し上げます。



6年生は、8月6日～8日まで岩井臨海学校に出かけました。お天気にも恵まれ、充実した3日間でした。特に印象的だったことは、6年生の生活態度です。子供たちは「〇〇係」というようにそれぞれに与えられた役割を担っています。よく見ると岩井での生活が進むにつれ、

子供たちの仕事ぶりに変化があります。役割がファジーになっているのです。その場の状況に応じ優先順位を決め、その場にいる者がさっと話し合っただけでそれぞれの役割を決め作業を進めていく。とても効率的です。先生の指示をただ待っている子は一人もいません。どうしてこんなことができるのでしょうか。

この力の源の一つは、6年生が3年間ずっと総合的な学習の時間で取り組んでいる「演劇」で身に付けたスキルだと考えます。『即興劇作り』では7・8人のグループが、わずか10分程度の時間の中でストーリーを作り、役を割り振り、それをみなの前で演じる活動を何度も繰り返してきました。とても難しい作業です。このような中で、自ら役割を見つけ出す力が一人ひとりの子供に少しずつ身に付いてきたのでしょう。集団の中で自分の役割があることは「貢献感」につながります。その貢献感を自らの手で作り出していける素晴らしい力が子供たちに育っていることを感じ、とても嬉しく思いました。9月4日からの魚沼移動教室でのさらなる成長を期待しています。

そんな6年生をリーダーとする145年目の明化小の2学期。みなさまどうぞご期待ください。